地方都市における観光対象の特性に関する考察

—北九州市を事例として—

CHARACTERISTICS OF TOURIST OBJECTS IN PROVINCIAL CITY

—Case study in Kitakyushu—

伊藤解子 —*1 日高圭一郎 —*2
佐谷宣昭 —*3 内田 晃 —*4
萩島 哲 —*5

Tokiko ITO —*1 Keiichiro HITAKA —*2
Nobuaki SATANI —*3 Akira UCHIDA —*4
Satoshi HAGISHIMA —*5

キーワード：
観光対象, 地方都市, 数量化理論, 観光施策

Keywords:
Tourist objects, Provincial city, Quantification Theory, Tourism policies

The purpose of this study is to examine the tourist objects in provincial city by using Hayashi Quantification Theory. Result is as follows; (1) Tourist objects are classified into seven typical groups which are group of 1) amusement, 2) history, 3) culture and sport, 4) waterfront, 5) green, 6) industry and 7) event. (2) Task to enrich tourist objects is to make efficient use of natural resources, equipment for industry and urban infrastructure, to link with reorganization of urban space as changes of industrial structure, to reevaluate historic resources and make a network of them. Then above all, it is necessary to expand amusement type with natural resources.

1. はじめに

1.1 背景

「観光」という領域が都市政策の課題となり、全国各地で観光振興を「まちづくり」と同義レベルで捉えた積極的な取り組みが展開されている。このような観光への期待の背景は次の4点に整理できる。

- 1) 余暇の拡大, 余暇意識の変化: 労働時間短縮、長寿社会化とともに余暇への関心と要求が高まり、観光が注目されるようになった。
- 2) 観光産業の拡大と質の変化: 余暇市場拡大により観光産業の重要性は高まり、より快適な体験や知的充足感を求める観光ニーズの高まりとともに、文化的、創造的な新産業分野へと成長しつつある。
- 3) 都市の余暇空間化: 都市の余暇空間はかつては遊興に偏り、職、住とは分離され軽視されがちであった。しかし今日では、21世紀への都市戦略としてコンベンションシティ、アーバンリゾートといった交流・余暇対応型都市づくりの気運が大きく高まっている。
- 4) 環境と観光のバランス指向: 地域資源への配慮、保全・活用の有用性等が強く認識されるようになり、国土・環境保全機能を持つ農林業振興対策としてグリーンツーリズムへの期待が高まっている。

このような背景のもと、「観光は21世紀のわが国の経済社会の発展の核となりうる」と高く位置づけられることとなった。¹⁾

北九州市では行政と民間の協力により、スペースワールドや門司港レトロ地区の整備を進め、1995年の総観光客数は約752万で前年から12%の伸びを示した。これらの実績を踏まえ1996年3月に「北九州市観光振興計画」が新たな指針として提起された。そこでは国際観光対策と郷土環境保全、若者にアピールする魅力づくり、高齢者等への配慮、精神の活性化とリラクゼーション、消費と創造、遊

びと勉強、日常と非日常などの課題が包括的に示されている。しかし観光対象の客観的指標に基づく特性分析を欠き、今後の具体的な施策の拠り所としては不十分な内容となっている。

1.2 研究の目的

以上のように、わが国の地方都市においては観光を挺子とした都市づくりの必要性が高まっている。観光施策の現実性、効率性を高めるために客観的データによる現況分析の必要性が高い。本研究は地方都市の観光現況を観光対象の面からとらえ、統計的手法によりそれらの特性を分析し、今後の観光施策に資することを目的とする。

1.3 研究の内容

本研究では調査対象として北九州市を取り上げる。まず、観光対象の考え方と分析の視点について述べ(第2節)、次に、事実データにより各々の観光対象の特性値を数量化して統計的な分析を行う(第3節、第4節)。さらに北九州市の観光計画に照らして、類型別に観光対象の整備課題について考察を行う(第5節)。

2. 観光対象の考え方・分析の視点

2.1 観光対象の考え方

観光は、観光主体と観光対象、そして両者を繋ぐ観光媒体により構成される^{2) 註1)}。本研究で取り扱う観光対象とは、観光者の行動の目的となる「もの」や「ことがら」の総称である。

観光対象は観光資源と観光施設の2つに大きく分けられる。素材としての観光資源は、従来『自然資源』や『歴史・人文資源』といった『人力ではつくりだせないかまたは短時間ではつくりだすのがむづかしい』というものが対象であった。しかし今日では、優れたデ

*1 北九州市都市協会 主任研究員・工修
(〒803-0814 福岡県北九州市小倉北区大手町11-4)

*2 九州産業大学工学部建築学科 講師・博士(工学)

*3 ㈱サハラ 代表取締役・工博(人間環境学)

*4 北九州市都市協会 専任研究員・工博(人間環境学)

*5 九州大学大学院人間環境学研究院都市・建築学部門 教授・工博

*1 Chief Researcher, Kitakyushu Urban Association, M. Eng.

*2 Lecturer, Department of Architecture, Kyushu Sangyo University, Dr. Eng.

*3 Sahara Co., Ltd., Managing Director, Ph. D.

*4 Researcher, Kitakyushu Urban Association, Ph. D.

*5 Prof., Department of Urban Design, Planning and Disaster Management, Graduate School of Human Environment Studies, Kyushu University, Dr. Eng.

ザインの建築や構造物、話題性の高い場所、埋立地の水際線等も観光資源としてとらえ活用可能性を探る必要がある。一方観光施設は、狭義には観光資源に付加されて観光対象とする施設（展望台、休憩所、遊覧船等）、及びそのものが観光対象となる施設（テーマパーク、レクリエーション施設、資料館等）であるが、広義には観光以外の用途にも供せられる観光関連施設（シティホテル、コンベンション施設、アリーナ、スタジアム等）を含み、観光事業の立場からは広義に用いるのがふつうとなっている。このように、従来の観光資源・観光施設の考え方にとどまらず、より幅広いビジター対応機能の検討が必要となっている。

さらに、観光対象がビジネスとして提供される場合に観光商品となるが、北九州市の観光対象の観光商品化は遅れている。また都市づくりにおいて観光にはビジネス以外の様々な効果が期待されている。従って未だ商品化されていないもの、商品化にふさわしくないものを含めた観光対象の把握が必要である。

2.2 本研究で扱う観光対象の種類区分の考え方

1) 観光対象を構成する資源・施設による区分（図1参照）

観光対象の種類は、行政の視点では施策と対応した分類が基本であり²⁾、計画者・事業者の視点では行動に対応した分類³⁾⁴⁾が重視され、研究者の視点からも計画論的⁵⁾、行動論的⁶⁾な分類や、社会、産業を重視した分類⁷⁾がみられる。本研究では奈良⁸⁾によるこれらの融合的な分類区分を基本に種類区分を設定した。

i) 観光資源

①自然資源は有形資源である「山地・樹林地」「水辺・水面」及び「温泉、天然記念物等」をとりあげた。②人文資源は、有形の「寺社・仏閣」「史跡・文化財」「記念碑・モニュメント」「近代建築・土木構造物等」、無形の「伝統行事・芸能」「祭り」「工芸技術等」、さらに③複合資源の「街並み・景観」をとりあげた。

ii) 観光施設

まず、観光資源に付加され観光対象化を可能にする施設を重視する視点から、①観光対象化施設の区分を独立させ、ここでは観光のための交通施設を含めて「展望施設等」をとりあげた。次に、それ自体が観光対象となる施設を②観光対象施設とし、観覧型の「展示施設」「産業観光施設」、体験型の「遊技施設」「園地・緑地」「スポー

ツ施設」「観光商業施設」「コンベンション施設等」をとりあげた。さらに③観光利用施設として「宿泊施設」と「商業施設」「交通施設」のうち観光利用の比重が高いものをとりあげた。

2) 観光対象が提供する機能（図2参照）

本研究では、資源・施設の面だけでは利用の実際をとらえるのに十分でないという視点から、観光者がそこで可能な行動や受けられるサービス、すなわち機能面からも観光対象を把握する手法をとる。

観光対象を訪れる人々の行動はいくつも想定される。

まず、サイトシーイング、すなわち“観られる”何かを提供することが第一義的な観光機能と考え、ここでは“観られるもの”の種類別に「自然」「歴史」「文化」「産業」「施設」「催事」と区分する。

次に、観光者の行動にできる機能を、まず「観る」、さらに、みずから身体を動かし「運動する」、施設内で「遊ぶ」、催事に「集う」、見聞や体験により「学ぶ」、観光行動を支援する機能でもある「買う・食べる」「泊まる」「くつろぐ」「移動する」と区分する。

2.3 対象サンプルの選定

以上の観光対象の種類区分にもとづき、北九州市において、既に認知されている観光対象、そして今後観光対象化の可能性をもつと考えられるもの、合計301のサンプルを選出した⁹⁾。

3. 北九州市の観光対象の概要

3.1 データ作成の方法

上記の観光対象をそれぞれ1つのサンプルとし、それぞれについて、表1のような項目別のカテゴリー区分によりデータ化した。

まず、観光資源・観光施設の種類、及び観光機能の種類について図1の区分をカテゴリーとした。1つの観光対象が2つ以上のカテゴリーに該当するのを前提としており、それぞれの反応をとらえた。

次に、利用条件について次のような項目・カテゴリーを設定した。

まず、開設状況について、開設時期からの経過年数の区分、管理・運営主体の区分、常時開設可否の区分を行い、次に分布状況について法指定や周辺市街化状況による区分、交通条件について高速道路IC、幹線道路、バス停及び駅からの距離による区分、さらに利用状況について滞在時間や利用者数による区分を行った。

また、施設属性については、規模・複合度を示す面積、資源・施設数及び機能数による区分、そして、利用基

盤について、専用駐車場の有無、周辺利用を含めた駐車可能台数、同じく宿泊可能人数、さらに、周辺の他の観光対象の有無による区分を行った。（表1参照）

3.2 取り上げた観光対象の概要

収集した全てのデータの概要を示す。

資源・施設の種類別では「史跡・文化財」を含むものが最も多く、次いで「水面・水辺」、「園地・緑地」が多い。機能別ではサイトシーイング対応の「歴史」が最も多く、次いで行動対応の「観る」「運動する」が多い。

開設からの経過年数は、高度成長期を含む戦後30年間の「20～50年」とリゾート法以降の「10年以内」が多く近年の拡充はこれまでにない速いペースである。管理・運営状況

図1 観光対象を構成する施設・資源の種類

図2 観光対象が提供する機能の種類

表1 データ項目

表1 データ項目				データ化項目・カテゴリ				実数(構成比(%))		データ化項目・カテゴリ				実数(構成比(%))		データ化項目・カテゴリ				実数(構成比(%))																																																																																																																																																																									
観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																																																																								
																						観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																																																			
																																											観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																														
																																																																観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																									
																																																																																					観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																				
																																																																																																										観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																															
																																																																																																																															観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																										
																																																																																																																																																				観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																					
																																																																																																																																																																									観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類
観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																																																																									
																					観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																																																				
																																										観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																																															
																																																															観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																																										
																																																																																				観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																																					
																																																																																																									観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																																																
																																																																																																																														観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																																											
																																																																																																																																																			観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類																						
																																																																																																																																																																								観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	観光資源・施設・機能の分類	
																																																																																																																																																																																													観光資源・施設・機能の分類

は「民間」と「公共」で半々、開設状況は「常時・通年」が多い。分布状況は「市街化区域」が半数をやや上回る程度で観光対象の分布は広範囲である。用途地域では「住居系」、次いで「商業系」が多い。

交通条件は、高速道路ICからおおむね10分以内で到達可能な「5km以内」が大部分であり、幹線道路との距離も「近接」が比較的多い。主要バス停から「250m以内」が多いが、鉄道駅から「500m以内」は少ない。利用状況は、滞在時間の短い「立寄り」が多く、年間利用者数では「20万人未満」が大部分である。

規模では「0.1ha未満」の小規模なものと「10ha以上」の大規模なものが多い。また、観光対象が構成する「資源・施設数2以上」、提供する「機能数2以上」が、それぞれ単独のものを上回り、複合的な要素をもつものが多い。利用基盤は、「専用駐車場あり」と、半徑500m以内に「宿泊施設あり」が、それぞれ約半数という状況である。また「他の観光対象が半徑500m以内にある」ものが比較的多い。

3.3 まとめ

北九州市の観光対象は、歴史、水、緑やそれらと結び付いた機能を要素とするものが多いこと、近年拡充がみられること、管理・運営に公共の関わるものが民間並に多くまた予約型が一定のシェアを占めること、分布範囲は広いが相互近接性も見出だせること、車によるアクセス条件が良いこと、等が確認できた。

4. 観光対象の類型化

4.1 類型化の視点

既往研究等では、あらかじめ類型の視点で設定した種別区分に判定区分するものが多い。しかし観光対象は複合化へと方向付けられており、行動に結びついて成立し、一概に判定するのは困難と考える。従って本研究では、観光対象を1または複数の要素で捉え、それらの組み合わせにより新たな分類軸を見出し、類型化を行う。

4.2 観光対象の基本的構成

ここでは、北九州市の観光対象の基本的要素を見出すために、数

量化Ⅲ類分析を行った。用いたデータは、前記、図1に示す観光資源・観光施設、及び図2に示す観光機能のカテゴリデータである。

数量化Ⅲ類適用の結果、図3のようなカテゴリスコア散布図が得られた。散布図の各軸は、北九州市の観光資源に共通してみられる因子、あるいはその背後に共通する潜在的な因子を表す。

I軸(固有値0.26776)は、正の方向には「山地・樹林地」「園地・緑地」「スポーツ施設」「記念碑・モニュメント」「文化」といった、フィジカル、メンタル、両面でのリフレッシュや再活性化につながる要素が比較的大きい値を示す。一方、負の方向では「工芸技術」「産業」「産業観光施設」「買う・食べる」「商業施設」等の産業系の値が大きい。従ってI軸は『文化・スポーツ』と『産業』の軸と解釈される。

II軸(0.25444)は、正の方向では「寺社・仏閣」「史跡・文化財」「歴史」「伝統行事・芸能」、負の方向では「くつろぐ」「遊戯施設」「遊ぶ」「宿泊施設」が大きな値を示す。従ってII軸は『歴史』と『アミューズメント』の軸と解釈される。

III軸(0.05418)は、正の方向では「交通施設」「移動する」が大きい値を示し、負の方向では、「遊戯施設」「遊ぶ」「宿泊施設」等、一定の場に留まる型の要素があげられる。従って、III軸は『回遊』と『滞在』を表わす軸と解釈される。

IV軸(0.01249)は、正の方向には際だった特徴はみられないが、負の方向で、「コンベンション施設等」「集う」「催事」「まつり」等、時期限定の『イベント』的な傾向を示している。

以上より、北九州市の観光対象の基本的構成は、『レクリエーション』『産業』『歴史』『アミューズメント』『回遊』『滞在』『イベント』の7つの因子で説明できることが分かった。

4.3 類型化された観光対象タイプの概要

さらにクラスター分析(Word法・単純ユークリッド距離)を適用し、北九州市の観光対象を7つのタイプに分類した。『1. アミューズメント型』『2. 歴史型』『3. 文化・スポーツ型』『4. 水辺型』『5. 緑地

型』『6. 産業型』及び『7. イベント型』であり、先に抽出したレクリエーション、回遊、滞在の各因子は、『文化・スポーツ型』『水辺型』『緑地型』のタイプに分類された。各タイプの特徴を以下に示す。

『アミューズメント型』の観光対象は「施設」を中心としたもので、体験型の遊戯施設、それに付加された施設の宿泊施設が該当する。このグループの代表的観光対象はスペースワールドで、比較的長時間滞留して遊ぶ施設が該当する。サンプル数は29である。

『歴史型』の観光対象は「資源」を中心としたもので、人文資源の

史跡・文化財、寺社・仏閣などが該当する。代表的な観光対象としては、門司港レトロ地区等の近代建築である。91サンプルが該当し、北九州市ではこのグループが最も多い。

『文化・スポーツ型』の観光対象は「施設」を中心としたもので、展示施設など文化・教養型の施設が該当する。代表的な観光対象は、市立美術館・美術の森で、該当サンプル数は49である。

『水辺型』の観光対象は「資源」と「施設」の両者によって特徴づけられ、「資源」は、水辺・水面の自然資源や有形の人文資源の橋、「施設」は水辺に付加されたもので、水辺の周遊路や航路の回遊移動が該当する。代表的な観光対象としては、関門橋、玄海遊歩道、関門海峡周遊船などが該当する。サンプル数は24である。

『緑地型』の観光対象は「資源」と「施設」で特徴づけられ、「資源」としては山地・樹林地、「施設」としては資源に付加される体験型の公園・緑地、自然遊歩道である。代表的な観光対象は、帆柱自然公園であり、眺望の優れた山地の自然資源とそれに付加された施設のケーブルカー等がある。44サンプルが該当する。

『産業型』の観光対象は「施設」で特徴づけられ、見学受入れ工場や名物市場などの商業施設が含まれる。代表的な観光対象には、新日鉄八幡工場や旦過市場があり、36サンプルが該当する。

『イベント型』の観光対象は「資源」と「施設」で特徴づけられ、「資源」としては人文資源のまつり、「施設」としてはコンベンション施設である。代表的な観光対象にはわっしょい百万夏祭りの人文資源や、西日本総合展示場のイベントをサポートする施設があり、14サンプルが該当する。数は少ないが認知度が高いものが多い。

4.4 まとめ

1) 北九州市の観光対象は、『文化・スポーツ』『産業』『歴史』『アミューズメント』『回遊』『滞在』『イベント』の因子で説明できる。
2) それらの因子の組み合わせにより、『アミューズメント型』、『歴史型』、『文化・スポーツ型』、『水辺型』、『緑地型』、『産業型』、『イベント型』、の7つの観光対象タイプに分類できた。これらは、次のように位置付けられる。

第1は従来から観光対象としてあげられたものである。このタイプは、自然地形を活用した観光対象で『水辺型』、『緑地型』、市街地内に存在する有形の人文資源を中心とした『歴史型』、『産業型』である。前者は資源と施設で構成され、後者は施設が中心である。特に後者の『産業型』は、工業都市の特徴を生かした観光対象である。

第2は、新しい観光対象として期待されるものである。これは、日常生活の延長として観光資源として考えられる『文化・スポーツ型』、『非日常的な世界を楽しむ都市資源のテーマパークとしての』『アミューズメント型』、『イベント型』がある。『文化・スポーツ型』、『アミューズメント型』は施設が中心であり、『イベント型』は施設と無形の人文資源と施設が中心となっている。

5. 類型化された観光対象の利用条件と整備方向の検討

5.1 各タイプの観光対象の利用条件

ここでは、上記の各観光対象タイプの利用条件を示す主な指標を、表3に沿って述べる。

『アミューズメント型』は、管理・運営は公共と民間がほぼ半々であり、常時開設で、商業系用途地域内にあるものが多い。高速道路ICとの距離は短く、バスの便も比較的良好、利便性は高い。複合度

図3 カテゴリースコアプロット図

表2 タイプ別クロス集計結果(1)

データ化項目・カテゴリー				構成比 (%)	タイプ別構成比 (%)							
					1	2	3	4	5	6	7	
観光対象の種類	観光資源	自然	山地・樹林地	15	29	4	8	33	50	0	0	
			水辺・水面	20	11	7	27	67	34	10	14	
			温泉、天然記念物等	3	4	0	10	0	5	0	0	
		人文	寺社・仏閣	12	0	36	2	0	5	0	0	
			史跡・文化財等	23	0	63	4	13	18	0	0	
			記念碑・モニュメント	14	7	15	18	4	34	0	0	
		無形	近現代建築、土木構造物	8	4	5	2	46	0	0	36	
			伝統行事・芸能	9	0	27	0	0	2	0	14	
			まつり	4	0	5	0	0	0	0	57	
		複合	工芸技術等	6	0	1	0	0	0	31	0	
			街並み・景観	2	0	14	0	0	0	2	0	
		観光施設	対象化	展望施設等	7	0	0	14	21	18	2	7
			観光対象施設	展示施設	16	14	19	27	4	20	2	14
				産業観光施設	17	0	0	4	4	2	90	0
	体験		遊技施設	2	25	0	0	0	0	0	0	
園地・緑地			19	36	2	14	13	77	0	0		
スポーツ施設			12	18	0	18	29	30	0	7		
コンベンション施設			5	21	0	0	8	0	0	43		
観光利用施設	商業施設		14	32	4	8	0	0	41	21		
	宿泊施設	7	79	0	0	0	0	0	0			
	交通施設	6	0	0	0	71	0	0	0			

では、機能数3以上が多く、多様な機能を備えていることがわかる。専用駐車場を持つものや、宿泊施設は周辺を含め100人以上に対応できるものが多く、観光基盤の水準は高い。しかも多くが他の観光対象と500m以内で相互に近接し、ネットワークも図りやすい。

『歴史型』は、管理・運営は民間が多く、歴史的行事に関わるものなど特定日のみ開設が比較的多い。住居系用途地域にあるものが多い。幹線道路に近接するものは低率で利便性は低い。専用駐車場をもつものは少なく、周辺の駐車場や宿泊施設等の観光基盤の水準も低い。単一機能のものが多く、500m範囲に他の観光対象は少ない。

『文化・スポーツ型』は、公共によるものが多い。市街化区域と市街化調整区域はほぼ半々で、自然と一体の場合が多く、バス停500m圏外で公共交通アクセスの不利なものが多い。資源・施設数、機能数とも単一なもの、すなわち目的が明確で限定的なものが多い。

『水辺型』は、公共によるものが多い。北九州市では、市街地と水辺が近接しているために、道路、バスなどの交通アクセスの利便性は高い。資源・施設数、機能数とも3のものが多いが、自然資源の水と回遊移動施設にサイトシーイングの要素が付加されたものが多い。他の観光対象と500m以内で近接するものがほとんどである。以上のように、利便性が高く、回遊に対応可能なタイプである。

『緑地型』は公共によるものが大部分である。100ha以上の大規模なものが多い。市街化調整区域が市街化区域を上回る。鉄道駅から500m圏のものは無く、主要バス停から250m以内も少なく公共交通ア

表3 タイプ別クロス集計結果(2)

データ化項目・カテゴリー			タイプ別構成比(%)							
			構成比(%)	1	2	3	4	5	6	7
管理・運営	管理・運営主体	公共	42	43	30	57	75	82	0	36
		民間	48	36	65	31	13	9	96	21
		公共と民間	11	21	5	12	13	9	4	43
運営	開設状況	常時・通年	71	93	66	90	96	100	16	57
		特定日のみ	9	4	21	0	0	0	0	43
		要予約	22	4	13	10	4	0	84	0
分布状況	都市地帯・市街化区域	住居系	25	18	45	18	4	25	10	21
		商業系	23	39	23	24	29	7	22	21
		工業系	12	7	1	8	4	7	43	14
周辺状況	市街化調整区域	DID内	41	36	31	49	63	61	25	43
		DID外	59	71	68	49	46	43	59	93
		状況	41	29	32	51	54	57	41	7
交通	道路との距離	高速IC	84	93	93	76	71	77	80	100
		5km以内	16	7	7	24	29	23	20	0
		5km以上	40	50	27	35	38	36	55	86
通過	幹線道路との距離	近接	38	29	54	41	42	32	20	14
		500m以内	22	21	19	24	21	32	25	0
		500m以上	41	50	44	31	29	27	41	93
バス	往復50便/日以上	250m以内	17	14	21	18	13	16	16	0
		500m以内	21	11	22	14	38	34	16	7
		500m以上	22	25	13	37	21	23	27	0
乗客数	往復50便/日以上	乗降客3万人/日	5	4	7	4	8	0	4	21
		500m以内	7	14	3	4	0	7	12	14
		500m以上	10	11	8	12	33	0	2	29
鉄道	以上の駅から	1km以内	78	71	82	80	58	93	82	36
		500m以内								
		500m以上								
規模	面積	10ha以上	18	25	7	27	13	52	2	0
		5~10ha以上	3	11	0	2	0	9	0	7
		1~5ha	18	29	16	16	4	34	6	29
複合度	資源・施設数	0.5~1ha	8	18	4	12	0	2	6	7
		0.1~0.5ha	7	14	8	13	4	0	2	0
		0.1ha未満	20	4	35	27	8	0	29	0
機能数	機能数	特定できない	27	0	8	24	71	2	55	57
		4以上	13	18	6	8	25	30	2	21
		3	25	39	8	15	63	32	29	7
利用	他の観光対象	半径500m以内	28	32	22	40	13	30	14	36
		半径250m以内	35	11	63	37	0	9	55	36
		半径100m以内	11	43	4	1	17	30	0	0
基盤	専用駐車場	あり	18	46	2	7	54	32	4	36
		なし・その他	32	11	31	30	29	39	43	43
		なし・その他	39	0	63	63	0	0	53	21
宿泊施設	宿泊施設に収容人数	500人以上	68	93	60	61	96	70	55	86
		100~500人	32	7	40	39	4	30	43	14
		100人未満	16	29	8	18	17	16	8	64
その他	その他	50~100台	23	36	14	35	42	32	10	7
		50台未満	6	7	4	4	0	16	0	14
		なし・その他	25	14	29	18	25	9	51	0
その他	その他	あり	30	14	42	24	17	18	29	7
		なし・その他	55	86	34	57	46	68	69	50
		なし・その他	45	14	66	43	54	32	31	50
その他	その他	500人以上	11	21	9	12	4	5	8	43
		100~500人	22	46	16	20	54	16	12	14
		100人未満	12	21	9	14	8	11	8	29
その他	その他	なし・その他	55	11	66	53	33	68	73	14

クセスの利便性は低い。複合度をみると、資源・施設数が多いのが特徴的である。また500m以内に他の観光対象が存在するものが多い。以上のように、利便性は低い複合性、多様性を備えている。

『産業型』は、民間で予約型が大部分である。工業系用途地域にあるものが多い。幹線道路に近接するものが多く道路アクセスは比較的有利である。専用駐車場保有率は比較的高いが、周辺を含めて100台以上に対応できるものは少ない。同様に宿泊に対応可能なものも少ない。機能数は2以下が多く、500m圏内に他の観光対象は少ない。以上のように、道路条件は整っているが、他の利用基盤は弱く、機能も限定的である。

『イベント型』は、公共と民間の共同によるものが多い。ほとんどが商業系用途地域に位置し、高速IC、主要バス停、主要駅にも近い。駐車場は周辺利用により500台以上に対応可能なものも多く、宿泊も周辺施設の利用によって500人以上に対応できるものが多い。500m圏内に他の観光対象が存在するものが多い。以上のように利便性や観光基盤に優れ、回遊・滞在が可能なタイプとなっている。

5.2 観光対象のタイプ別整備方向

以上の分析で見たように、『アミューズメント型』『イベント型』は、市街地の中でも中心部に位置しており、利便性は高い。『水辺型』も、市街地に沿っており、同様に利便性は高い。これらの観光対象は市街地内で相互に近接しており、関連づけて整備すれば相乗効果が期待される。『緑地型』は、多くが山地に位置しており、相対的に利便性は低い。『歴史型』『文化・スポーツ型』『産業型』は、市街地内に分散的に位置しており、アクセスなどの利便性もやや低い。また単一機能が強く、観光基盤も相対的に未整備である。

ここで「北九州市観光振興計画」(1996年3月)⁹⁾に記載されているプロジェクトをタイプに分け(表4参照)、今後の課題を検討する。

1) 市街地内の都市的な観光対象の整備方向

『アミューズメント型』: 新規事業には小倉都心の再開発事業がある。既存の観光対象を充実する事業としては、門司港レトロのホテル、八幡東田のベイフロントパーク等がある。いずれも施設機能の充実や、周辺の既存機能との連携による魅力増進を主眼としている。

『イベント型』: 新規事業としては国際総合流通センターがある。これは小倉都心における国際交流型観光の機能充実を目的とし、駅と結ぶ動く歩道等の関連施設と合わせた整備による効果が大きい。産業振興策としてのコンベンション、見本市等の誘致やイベント効果による集客が目的であり、「産業型」「アミューズメント型」との関連を考慮した事業となっている。

『産業型』: 新規事業としては、サッポロビール工場移転後の観光工場化や太刀浦コンテナターミナル展望室等がある。これらは臨海産業地帯の空間的な質を高め、また目的限定的な産業観光の多様化、複合化に効果的である。さらに、新たな観点から観光農業や観光漁業が、既存の「緑地型」「水辺型」の観光対象の充実と合わせて複合的に検討されている。

2) 市街地に面する水辺の観光対象の整備

『水辺型』: 北九州市は特徴ある4つの海域(響灘、関門海峡、洞海湾、周防灘)に面して水際線が長く変化に富み、海辺や水面の眺望により観光対象化されたものが多い。新規事業としては小倉都心の砂津港ポータルネッサンス事業があり、継続あるいは充実事業としては、小倉都心の紫川マイタウンマイリバー事業がある。これら

はアメニティの高い観光対象の形成に大きな効果が期待できる。

3) 分散的立地の観光対象の整備

『歴史型』：急速な都市形成のなかで歴史資源への評価や配慮が乏しかったが、近代以降の産業と都市の歴史が加わり歴史資源の厚みは増している。歴史に立脚することから全くの新規といえるものは無いが、旧長崎街道周辺整備は新たな取組みである。また既存の観光対象を充実・強化する事業としては、門司港レトロの海峡ミュージアム、八幡東田の第一高炉記念公園、小倉都心の小笠原会館等がある。これらは特色ある歴史資源を含め、豊かな歴史を持つ都市像をアピールするのに効果的であり、さらに充実の必要性が高い。

『文化・スポーツ型』：文化・教養やスポーツといった比較的目的意識の高い余暇行動ニーズの拡大に対応した各種の施設が、比較的分散的に形成されてきた。既存の観光対象の充実・強化にもつながる新規事業として、小倉都心の松本清張記念館がある。重点エリアの一画であり、『歴史型』などの観光対象との相乗効果が期待される。

4) 自然資源の観光対象の整備

『緑地型』：自然資源が国立公園、都市公園等として保全・活用されている。大規模で『文化・スポーツ型』『歴史型』を内包するものが多い。新規事業としては、河内温泉郷の整備がある。既存の観光対象の充実・再生を図るものとしては、郊外カルスト台地のハートランド平尾台や帆柱山・皿倉山エリアの再整備がある。優れた緑地資源や複合的な機能を有し、観光対象としての活用価値は高いことから、資源保全に十分配慮しながら、魅力の創出・増進の工夫の必要性が高い。

表4 観光開発・整備プロジェクト

		プロジェクト名	整備主体	施設概要	タイプ
重 点 構 想 の エ リ ア	小倉都心	国際総合流通センター	市	展示・イベント施設、流通	イベント型
		砂津ポートルネッサンス事業	国・市	港湾、旅客ターミナル、緑地	水辺型
		紫川10橋・ウォーターフロント	市	橋梁、浸水空間	水辺型
		勝山公園	市	緑地公園	緑地型
		小笠原会館	市	歴史ミュージアム	歴史型
		松本清張記念館	市	ミュージアム、観光農園・牧場	文化・スポーツ型
		小倉北区役所跡地再開発	市	文化施設、商業施設、業務	アミューズメント型
		メディアドーム	三セク	競輪場、メディアパーク	アミューズメント型
		八幡東田			
		東田ベイフロントパーク	三セク	温泉健康施設、場外馬券売	アミューズメント型
	門司港レトロ	東田第一高炉記念公園	市	広場公園	歴史型
		自然史博物館	市	科学文化の展示	文化・スポーツ型
		門司港ホテル	三セク	宿泊施設 他	アミューズメント型
		レトロハイマート（仮称）展望台	市	（民間施設敷地上隣購入）	アミューズメント型
		めかりハイウェイオアシス	未定	宿泊施設 他	アミューズメント型
		海峡ミュージアム	未定	土木史博物館	歴史型
		関門ロープウェー	民間	観覧	アミューズメント型
	平尾台その他	ハートランド平尾台	三セク	ミュージアム、観光農園・牧場	緑地型
		河内温泉郷整備（第1期）	市	温泉健康施設、公園 他	緑地型
		脇田海岸・マリノバベーション地区	民間・市	レストラン、人工海浜	水辺型
		北九州通河川自転車道	国・県・市	自動車道、休憩	文化・スポーツ型
	産業と技術	太刀浦コンテナターミナル展望台	市	業務施設、展望施設	産業型
そ の 他	門司	サッポロビール工場	民間・市	展望、レストラン	産業型
	小倉北	日明緑地	市	海釣り公園	緑地型
	小倉南	総合農事センター	市	展示ホール、パイオ実験棟	緑地型
		小倉競馬場	JRA	ドーム、スタンド、遊園地、他	アミューズメント型
	八幡西	瀬板の森整備事業	民間・市	公園、ゴルフ場	文化・スポーツ型
		長崎街道周辺整備	市	歴史遺産の修復、中核施設整備	歴史型
		こどもの館	市	大型児童施設	文化・スポーツ型

5.3 まとめ

類型化された観光対象の利用条件と整備方向を検討した。

- 1) 『アミューズメント型』『イベント型』は、アクセスや観光基盤は整備され、新たな観光対象の整備によって相乗効果が期待される。『産業型』は、単独立地が多く道路アクセスは良いが観光基盤が弱い。観光対象の質の向上とともに、他のタイプとの連携が必要である。
- 2) 『水辺型』は、他のタイプの観光対象と結びつけ、都心での整備が期待される。
- 3) 『歴史型』『文化・スポーツ型』は、数多く広く分布するが総じて観光基盤が弱い。今後は、他の観光対象と結びつける必要がある。
- 4) 『緑地型』は、公園・緑地等で資源・施設の複合度が高く、大規模なものが多く、他の観光対象との結びつきが必要である。

以上の分析から「北九州市観光振興計画」を評価すると、拠点施設の充実が中心であること、他のタイプの観光対象との関連が考慮されていることが明らかとなった。従って、今後は拠点施設と他のタイプを結び付ける相乗効果の高い基盤整備の必要性が高い。

6. 結論

- 1) 観光対象の基本特性は『文化・スポーツ』『産業』『歴史』『アミューズメント』『回遊』『滞在』『イベント』の7因子で説明でき、それらの因子から『アミューズメント型』『歴史型』『文化・スポーツ型』『水辺型』『緑地型』『産業型』『イベント型』の7グループに分類できる。
- 2) 観光対象形成の課題として、自然資源や産業施設、都市インフラ等のストックを観光基盤として活用すること、産業転換にともなう都市空間再構築に観光整備を盛り込むこと、歴史資源の再評価と整備等が指摘できる。なかでも観光客吸引の核となる『アミューズメント型』や、資源活用の遅れている自然型の充実が課題である。
- 3) 観光対象を効果的にネットワークする基盤整備が課題であり、そのためには、交通計画との関連や観光行動の分析等をもとに観光対象のタイプ相互の関連を明らかにしていくことが今後の課題である。
- 4) 本研究は観光対象の特性把握に有用な説明因子と、観光対象の新しい分類軸の提案を行った。さらに観光対象のタイプ別分析に基づき、北九州市の観光施策の課題を提案することができたと考える。

参考文献

- 1) 観光政策審議会：今後の観光政策の基本となる方向について（答申），1995年
  - 2) 前田勇編：現代観光キーワード辞典，学文社，1998年
  - 3) 日本観光協会：観光レクリエーション施設基準に関する調査研究報告，1973年
  - 4) 日本交通公社調査部編：観光読本，東洋経済新報社，1994年
  - 5) 鈴木忠義編：現代観光論，有斐閣双書，p.73，p.231，1974年
  - 6) 前田勇編：観光概論，学文社，p.6，1978年
  - 7) 足羽洋保編著：新・観光学概論，ミネルヴァ書房，1994年
  - 8) 奈良繁雄：観光対象と観光商品，塩田正志，長谷川政弘編著：観光学，同文館1994年
  - 9) 北九州市：北九州市観光振興計画，1996年
- 注1) 前田は現代観光の認識の枠組みとして「観光の主体－客体二項関係」を基本に両者の関係を強化する観光媒体を第三項として位置づけている。
- 注2) 観光基本法第7条、8条は同法2条「国が行うべき事項」を敷衍した内容である。施設区分に対応した施策、例えば宿泊施設には「国際観光ホテル整備法」、食事施設には「国際観光レストラン登録規定」、案内施設には「i」システム等の整備、といった対応がみられる。また第14条（観光資源保護規定）にもとづき別途講じられている法的措置等として「古都における歴史的風土の保存に関する特別措置法」「文化財保護法」「自然環境保全法」「自然公園法」「森林法」「温泉法」等がある。
- 注3) 「るるぶ関門」（日本交通公社，1996年）、「ウィークエンドマップ北九州」（北九州市，北九州都市協会，1994年）、「北九州レジャーガイド」（北九州市，北九州市観光協会，1994年）、「北九州市の歴史探訪」（北九州史跡同好会，1990年）等をもとに、対象の選定、情報の整理を行った。

[1999年10月10日原稿受理 2000年2月2日採用決定]